

なかむらとくべつしえんがっこうだより

よこはましりつなかむらとくべつしえんがっこう
横浜市立中村特別支援学校

こうりゅう じんけん ぶ
交流・人権部

ねん がつ
2022年10月

すてき であ すてき こうりゅう 素敵な出会い・素敵な交流

なかむらしょうがっこう こうちょう はらだ まゆみ
中村小学校 校長 原田 真由美

なかむらしょうがっこう ちやくにん かけつ なかむら く き
中村小学校に着任して5ヶ月。中村に来ることが決まってから、ホームページを見て、「中村
しょうがっこう とびらいちまい なかむらとくべつしえんがっこう つな うんどうかい いっしょ おこな
小学校は扉一枚で中村特別支援学校と繋がっている。運動会(オリンピック)も一緒に行っている
んだ。」ということを知りました。子どもたちの交流はどのように行なうのかなと楽しみでした。

ほんこう こ にゅうがく がっこう けいけん たくさん ひと であ
本校の子どもたちは、入学したときからほかの学校では経験できないほどの沢山のひとと出会い、
しぜん かたち こうりゅう すてき かんきょう あらた かん か
自然な形で交流していくという、素敵な環境にいて改めて感じることができました。コロナ禍
こうりゅう しかた か き ことし かぎ ちよくせつこうりゅう
で交流の仕方変わってきたことを聞きましたが、今年にはできる限り直接交流をしていきたいなと
おも きょういくかつどう おこな
いう思いで教育活動を行っています。



いちねん かくがくねん
一年のスタート、各学年で「はじめまして。これからよろしく。」

かお あ おこな おこな
という顔合わせが行われました。どんなふうに行うのか

きょうみしんしん たが も なかよ り
興味津々。互いにテープを持ち、仲良くしようねと、テープを振る。

ほうほう かんしん り おも き り たが て
こんな方法があるんだなと感心しました。テープを振るとき、思い切り振ってしまうと互いの手から
はな つよ り きも つた たが おも
離れてしまう。どちらかが強く振っても気持ちが伝わらない。互いのことを思いながらやらなければ
ならず、いい方法だと思いました。



がつ おこな なかむら りょうこう こ いっしょ おこな
5月に行われた「中村オリンピック」。両校の子どもたちが一緒に行う

えんぎ かんどう あつ なか おな こうかん おな じかん なが
演技は感動でした。暑い中ではありましたが、同じ空間で同じ時間の流れを

かん じぶん あ うご かんが かけ
感じながら、自分たちに合わせた動きを考え、ひとつになる。その陰には、

ほうかご なんと う あ かくにん あ せんせいがた すがた
放課後、何度も打ち合わせをして、確認し合う先生方の姿がありました。

ぜんこうきょうぎ おおだまおく つな つよ かん きょうぎ
全校競技の大玉送りは、繋がりの強さを感じさせてくれる競技でした。

しえんがっこう こ じょうほう
支援学校の子どもたちがポッチャをやっているという情報をいただき、

いぜん わたし きょうみしんしん さんかん い こんど
以前やったことがある私は興味津々。参観に行きました。今度はどんな

くふう たの いま
工夫があるのかな?と楽しみでした。今もって

じぶん ちから はっき せんせいがた とく く
自分の力をどうやって発揮するか、先生方がしっかりとくみとって取り組
んでいました。

つき あたら であ たの
次はどんな新しいことに出会えるかとても楽しみです。



「大切な仲間との交流」

もとまちしょうがっこう
元街小学校

きょうゆ あなざわ なおみ
教諭 穴澤 直美

2022年の1月に初めての交流を行いました。9月に第1回の交流を計画していましたが、新型コロナウイルスの感染が広がり、年が明けての実施となりました。

夏休み明けから、1年2組の子どもたちは交流を楽しみにしていましたが、延期になっていましたので、「やっと会えるね。」と嬉しそうでした。

「どんな交流にしようか。」とクラスで話し合い、お互いに自己紹介をし合ったり、一緒に歌を歌ったりして過ごしました。担任の先生から、中村特別支援学校での学校生活を紹介していただいた際には、真剣な表情で話を聞き、「一生懸命に勉強をしているんだね。」と感想を述べていました。



交流の最後には、校庭に場を移し、本校の樹齢140年を超えるヒマラヤスギに会いに行きました。2組の子どもたちは、このヒマラヤスギが大好きで、「ヒマラヤスギに会いに行く」という表現をします。計画を立てる際に、「ヒマラヤスギを見てほしい。一緒に会ってほしい。」という子どもの願いがあり実現させたものです。ヒマラヤスギの下で握手をしたり、話をしたりして交流が終了しました。同じ地域に住んでいることを知り、子どもたちは、「今度町で会えたらいいね。」「会ったら『こんにちは』って言うね。」と別れを惜んでいました。

お別れした後、子どもたちは、「大切な仲間だね。仲間が増えて嬉しいね。」と話し合っていました。

昨年度は一回だけでしたが、今年度は複数回の交流ができればと願っています。また、「わたしたちの大切な仲間」という子どもたちの思いがさらに育つように、今年度の交流学級である2年3組の子どもたちとの交流が実りあるものになってほしいと願っています。



むすめ ぶくがくせきこうりゅう かか みなさま かんしゃ こ
「娘と副学籍交流に関わってくださるすべての皆様に感謝を込めて」

しょうがくぶ ねん ほごしゃ
小学部2年 保護者

ぶくがくせきこう もとまちしょうがっこう
副学籍校 元街小学校

まずは特別支援学校、副学籍校の方々、副学籍交流に携わっている皆様にお礼を申し上げますと共に、
この度このような場を頂いたことに感謝いたします。

我が家には特別支援学校小学部2年生になる娘がおります。

副学籍の言葉を初めて聞いたのは、まだ娘が療育センターに通っていた頃、療育センター主催で行
われた先輩保護者さんとの交流会でした。「副学籍は絶対行った方がいいよ！」と教えてもらい、HP
を検索し、そこで横浜市の取り組みを知りました。

療育センターから帰る途中、元気に楽しそうに下校する副学籍校の子たちとよくすれ違うこともあり、
学区の小学校との関わりは持てないのかな、と寂しく思っていた私にはなんととも耳よりな話でした。

入学前のそれぞれの学校での面談の際には副学籍交流を希望しますと伝え、入学後、支援学校の担任
の先生から再度「副学籍交流を希望されますか？」と確認された時は食い気味に「お願いします」と言
うくらい楽しみにしていました。

皆様も嫌というほどに思い知らされているコロナ禍のもと、私や娘の体調のことなどもあり、中々
直接副学籍校に登校出来ずにおりましたが、小学1年生になり、年の明けた1月、遂に副学籍校に登校
することが叶いました。

娘と二人、いつもと違う通学路、いつもと違う校舎。そして初めての友達。

娘は生まれてこのかた、大勢の医療関係者の皆様、福祉の関係者の方、つまりは親切な大人の方たち
との接点は数多くあれど、沢山の同年代の友達に会うのは今回が初めてです。

先に来て待っていてくださった支援校の担任の先生に娘をお願いし、私は副学籍校の先生が用意し
てくださった教室の一番後ろドア寄りの端の席にお邪魔させていただきました。

前の扉から担任の先生と娘がははじめまして、と教室に入ってきます。

副学籍校の皆さんが声を揃えて迎えてくれました。この日のために皆さんでいっぱい考えて、沢
山準備してくれていたのですね。歓迎会はとてもやさしくて、あたたかくて、思いやりに溢れていました。

お一人ずつお名前と好きなものを教えてくれて、こちらの質問にも丁寧に答えてくれて、2時間目だけの
はずが、中休みの時間にはなんと校庭に一緒に行って、皆さんの大好きな3本の本を教えてくださいまし

た。校庭に出た瞬間、離れて見ていた私から娘が見えなくなるほど娘の乗ったバギーを皆さんで囲
んでいっぱい話しかけてくれました。

帰りに皆さんが揃って校門を出るところまで見送ってくれました。

副学籍行きたい、とアピールしつつも、当然、不安もありました。子どもたちや大人も巻き込んで好意に甘えすぎてやしないか、気を使わせて、困らせてしまうのではないか。教室に入るまで内心バクバクでした。親があれこれ考えていても子どもたちでどんどん進んでいくのですね。

私は心底願いました。忍者になりたい。気配を消して、壁になり、ひっそりと子どもたちを見守ってほしい。親、邪魔と。

年度が明けて小学部2年生。今年度も副学籍交流を希望しました。6月28日、副学籍校でもクラス替えがあったとのことで、はじめましてとお久しぶりのお友達に会うことができました。歓迎会がさらにパワーアップしていました！！皆さんが会の進行をして、自己紹介もしてもらって、合唱も沢山歌い、1年ぶりの皆さんの成長が著しくて、昨年度と同じ後ろのドア寄りの隅の席でやっぱり気配を消して、忍者になりたいくなりました。そしてまた校庭で、皆さんと一緒に出来ました。いつか、皆さんが好きだといった、ドロケイと一緒に遊べたら。欲がどんどん出てきてしまいますね。

最後、校門を出るところまで、皆さんが見送ってくれた時に、「次はハロウィン、クリスマスもね！！」と声をかけてくれました。「また」の言葉がこんなに嬉しいなんて。皆さんが練習される獅子舞も応援にきてくださいね、とも。

娘は重度の脳性麻痺があり、移動はバギー。気管切開をしていて、普段から10分に一回程度吸引をしています。はじめましての方には感情が伝わりにくいところもあります。そんな娘の誰が見ても分かる楽しさの基準、それは吸引回数です。楽しくて集中していると、明らかに吸引回数が減ります。

ご想像の通り、副学籍交流の最中、娘の吸引は一回もありませんでした。

これを書いている今、ニュースで障害者権利条約に関する国連の調査が終了し、特別支援教育などに改善勧告が出される見通し、との報道がありました。これからも色々な形で共生を目指していく社会であって欲しいと思います。

この副学籍交流がその一端を担えるものであると信じております。

末尾になりますが、娘に関わって下さるすべての皆様、重ねてありがとうございます。